

(近藤議長)

まず、確認させて頂きたいのですが、「木更津市が暫定配備の受け入れについて了承頂けた場合」ということが、資料にも記載されておりますが、本日はあくまで防衛省が木更津駐屯地を選定したという報告で、我々市民から暫定配備受け入れについての了承を得るまでは、決定ではないという理解でよろしいでしょうか。

(原田副大臣)

そのとおりでございます。我々としては、決定をしたのでよろしくということではなくて、市民の皆さんにも説明が必要であると思っていますので、防衛省として対応させて頂いた上で、ご了解を頂ければ木更津駐屯地でオスプレイの仮運用をさせて頂ければと思います。

(近藤議長)

本日正副議長で説明を伺っておりますが、本市議会は24名の議員で構成されています。他の22名の議員もそれぞれの立場から色々と質問事項があると思いますので、改めて議会全体への説明をお願いしたいと思いますが、可能でしょうか。

(原田副大臣)

そのように対応させて頂きたいと思います。

(近藤議長)

いつどのような形で行うのかは、事務方で詰めさせて頂きますのでよろしくお願いします。

次に、今後、佐賀での受入の進捗状況など、不確定要素が数多くあることは承知しておりますが、暫定配備期間のおおよその目処を示して頂かないと、市民の理解をなかなか得られないと思います。そのあたりの目処はいかがでしょうか。

(小波審議員)

佐賀空港への配備については、昨年8月24日、佐賀県知事から防衛省の要請を受け入れるとの表明を頂いています。この点、佐賀県は、現在、「佐賀空港を自衛隊と共用しない」との約束がある公害防止協定を変更することについて、有明海漁協と協議・調整しており、本日の午後、佐賀県知事が有明海漁協に対し、直接説明されると承知しております。

その上で、佐賀空港における施設整備は、防衛省による土地取得後、工事に着手という流れになります。工事着手後の工期について、今後、基本検討業務等の中で決定していくことから、現時点で確定していませんが、施設整備には一定期間を要すると見込んでいます。

防衛省としては、佐賀県と漁協との間の協議の進展を見守りつつ、地権者でもある漁業者の方々のご理解を得られるよう、丁寧かつ着実に説明を続けていく

必要があると考えています。

したがって、相手方のあることでもございますので、今この段階で具体的な目処について申し上げられないという点については、ご理解を頂きたいと思っております。

いずれにいたしましても、暫定的な配備の必要性については、先ほど副大臣からご説明いたしましたとおりでございます。

（近藤議長）

今後、市議会への説明の際には、ある程度の目処は示して頂ければと思いますので、その点をご検討をお願いします。

次に、市民生活への影響が大きいのは、木更津周辺でどのような訓練を行うのかだと思いますが、具体的な内容はまだ考えていないということでしょうか。

（小波審議官）

実際にオスプレイを暫定的に配備した後における訓練の具体的な内容・態様については、現時点において確定してはおりませんが、想定される主な訓練としては、飛行場内で行うホバリング訓練や飛行場・周辺空域で行う離着陸訓練に加え、計器飛行訓練や編隊飛行訓練などが考えられます。訓練場所としては、飛行場、その周辺に設定した場周経路、演習場などを想定しています。

ご案内のように今回陸上自衛隊としては、初めてオスプレイを配備いたしますので、当然のことながら、こういう基本的・基礎的な訓練からスタートすることが考えられるところでございます。

いずれにいたしましても、オスプレイは、木更津駐屯地に所在する他の陸自航空機同様、市街地上空を避け、人家のない山岳部等の訓練空域や演習場等において、安全に十分配慮して訓練を実施させて頂きたいと考えております。

いずれにいたしましても、今後具体的な配備内容とともに実際の訓練内容等についても、私ども陸上自衛隊等とも相談しながら、検討していくことになると思いますので、その際に、また改めましてしっかりと丁寧なご説明をしていきたいと考えております。

（國吉副議長）

暫定配備した場合の具体的な訓練についてお伺いします。過去に沖縄でオスプレイが空中給油した後に、不時着水という事故が発生しましたがけれども、そのような訓練の実施は想定しているのでしょうか。

（小波審議官）

まず、ご指摘の米海兵隊オスプレイの沖縄における空中給油中の事故、これは平成28年12月に起きております。

これらについて、機体導入後当面の間は、陸自オスプレイの安全確保を万全に

する観点から、搭乗員に対して、まずは空中給油及び発着艦以外の基本操縦を徹底して修得させることとしています。

暫定配備開始当座につきましては、このような訓練をただちに実施するということは想定されないところでございます。

その上で、これらの訓練の具体的な開始時期については、オスプレイ操縦士の養成状況等を勘案しながら計画することとなることから、現段階でいつごろ、どのようにというのは申し上げられないところでございます。

いずれにいたしましても、ただいま議長・副議長からご指摘頂きましたように、ご地元において色々ご懸念があるようなことにつきましては、今後も引き続き、事務方等を通じ、あるいは説明会等も通じまして、キャッチボールをさせて頂きながら、ご地元のご理解を頂いた上で、運用を開始したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（國吉副議長）

市民が一番関心を持っているのは安全面だと思いますが、騒音の問題についても大きな関心を持っていると思います。騒音については既存のCH-47JAとほとんど変わらないとの説明が本日ありましたけれども、2021年以降は1日平均15回、年間4500回という回数が増えるわけでございます。そうしますと当然全体的な騒音は増加しますが、今後騒音測定場所を設置していくという考えはありますでしょうか。

（原田副大臣）

御懸念を頂いております騒音につきまして申し上げさせて頂きますと、陸自オスプレイの騒音は、日米オスプレイの共通整備基盤の受入れを木更津市に対して要請をいたしまして、2016年10月に木更津駐屯地において実施した米海兵隊MV-22オスプレイと陸自CH-47JAの騒音測定の結果を踏まえて、木更津飛行場に配備されている機種の中で多数を占めるCH-47の騒音と同程度であると説明を申し上げた次第でございます。したがって、陸自オスプレイ配備によりまして、同飛行場周辺の騒音に著しい影響はないと考えておりますが、陸自オスプレイの暫定配備後の騒音状況を必要に応じて確認をして、適切に対応してまいりたいと考えております。

（小波審議官）

ご指摘の騒音の影響の測定等を含めまして、騒音の影響等の評価方法や措置のあり方について、具体的にご地元ともご相談させて頂きながら、検討させて頂きたいと思いますが、副大臣よりご説明いたしましたとおり、ただちに騒音が大きくなるとは現時点では考えていないところではございますが、いずれにいたしましてもご地元とも相談しながら調整させて頂きたいと考えております。

（近藤議長）

それでは、今後議会全体の説明の機会を設けて頂けるということでございますので、詳細についてはその場で聞かせて頂くということで、本日頂いた資料を議会全体で情報共有しまして、検討させて頂きたいと思います。

それでは、次回よろしくお願いいたします。

（原田副大臣）

ありがとうございます。ご地元の皆様にはご負担をお願いすることになりますので、防衛省としてはご地元の皆様のご理解ご協力を頂けるよう丁寧な説明に努めさせて頂きたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。